

勤務医であることの魅力について

地方独立行政法人広島市立病院機構

広島市立広島市民病院 病院長 荒木 康之

最近考えていることの一つに、「勤務医であることの魅力は何か」ということがあります。自分に振り返ってみて、幸い、好きな仕事を十分にできる環境に恵まれたため、いままで勤務医を続けてこれました。しかし、私は、たまたま幸運であっただけだと思います。

勤務医であることの魅力を自分なりに考えると、一番は、お金のことを考えずに最先端の診療ができるということだと思っていました（本当は、お金のことをもっと考えなくてはいけなかったのですが）。最先端の医療を行うには、それなりの設備、人が必要です。個人で最先端医療を行っている医師もいますが、病院でないと難しいのが実情だと思います。私としては、30歳代から40歳代にかけて、肝癌の診断と治療が画期的に進歩した時期に、肝癌診療に関わったことは、大変幸運でしたし、充実感もありました。また、広島市民病院の先輩方が築きあげた実績があり、肝癌の患者さんを一から集める必要がなかったのも広島市民病院で働く機会ももらったからだと思っています。一方、50歳代後半になり、病院長になって、経営的なことを一番に考えなくてはならない羽目に陥ったのは、何とも皮肉なことです。

二番目は、生活のリスクの少ないことです。すごく高給ではないものの、生活に困らない給与をいただけるので、家族としては助かると思っているはずですが。給与面だけでなく、医療事故の対応という面でも、病院という大きな組織に属していることで、さまざまな人に守られ

ていることは、いろいろな場面で感じてきました。医療事故対応については、今後も病院が最も力を入れて行わなければならないことの一つだと思っています。

三番目は、チームで診療する喜びだと思います。私の場合は、内科というチームで協力していろいろな困難な課題に立ち向かえたと思っています。さらには、看護師、臨床検査技師、診療放射線技師、薬剤師ともチームで診療できたことは大きな成功体験です。また、初期研修医の教育の担当もしていましたので、若い医師を育てる喜びも味わわせてもらいました。最近、当院での初期研修1期生が10年経って、当院に帰ってきてくれました。立派に成長した姿を見ると、感慨無量です。こういう喜びは、長く病院勤務を続けたおかげだと思います。

一方、勤務医であることは、組織の一員であることを要求されます。好きな診療だけを行うことは組織としては許されません。たとえば、救急をやりたくない医師にとって、当院のようにたくさんの救急患者さんを診る病院で働くことは、とても苦痛なことだと思います。勤務医であることのメリット、デメリットを天秤にかけて、どこあたりが許容範囲なのかは、医師一人ひとりで異なる点だと感じています。

病院長となってから、当院の医師みんなに、私自身が今まで思ってきたことと同じような思いを持ってもらえるには、どうしたらよいかを考え、できるだけ、彼らの思いの最大公約数を感じる感性を持ち続けたいと思っています。